研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-510		18-078	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol Consumption and the Risk of Gastroesophageal Reflux Disease: A Systematic Review and Meta-analysis.

アルコール摂取と胃食道逆流症の危険性: システムレビューとメタ解析

執筆者

Pan J, Cen L, Chen W, Yu C, Li Y, Shen Z.

掲載誌

Alcohol Alcohol. 2019 Jan 1;54(1):62-69. doi: 10.1093/alcalc/agy063.

キーワード	PMID
アルコール、胃食道逆流症(GERD)、メタ解析	30184159

要　旨

目的：

アルコール摂取が胃食道逆流症(GERD)を増加させるかどうかの疫学的に一定した見解はいまだ得られていない。この研究では観察研究のメタ解析によりアルコール摂取と GERD の相関を調べた。

方法：

2 人の研究者がそれぞれ PubMed・Cochrane・EMBASE から同様の研究を検索し、ランダム効果モデルにより、関連を評価するための最終のオッズ比(ORs)と 95%信頼区間(CIs)を算出した。異質性は Q 検定や I^2 統計量で評価を行い、サブグループ解析や出版バイアス・感度分析も同様に行なった。

結果：

2015 文献が候補として挙げられたが、うち 26 の観察研究と 3 つの症例対照研究が対象となり、計 119,552 例がメタ解析に用いられた。非/機会飲酒者と比較した、現在飲酒者における GERD の統合 OR は 1.48(95%CI,1.31-1.67;I^2 統計量=88.8%)となった。また 5 つの観察研究での頻度解析では、非/機会飲酒者に対して、週 3-5 回未満の飲酒者の OR は 1.29(95%CI,1.14-1.46;I^2 統計量=35.5%)で、一方それ以上の飲酒者の OR は 2.12(95%CI,1.63-2.75;I^2 統計量=55.1%)と有意に高かった。用量反応解析が 3 研究で行われており、アルコール摂取と GERD 発症には線形関連を示し($P_{\text{for nonlinearity}} = 0.235$)、アルコール量 12.5g/日毎の OR は 1.16(95%CI,1.07-1.27;P=0.001)であった。

結論：

当メタ解析により、アルコール摂取と GERD リスクの潜在的な関連が示され、またアルコール摂取量と頻度の増加が GERD と強い関連を示した。